

## エキノコックス マダニ についての危機管理参考資料

出典「人体に危ない細菌・ウイルス」

小林一寛（医学博士 獣医師）

PHPサイエンスワールド新書 078 2014.4

### ○キタキツネが運ぶ寄生虫－エキノコックス症

- ・キタキツネや犬などの糞便中に含まれる多包条虫の虫卵が飲食物や手指に付着、それを経口的に摂取して起こることが多い。
- ・口から入った虫卵は腸内で孵化し血管を通り肝臓に入り増殖する。人では5～10年位は症状が出ない。
- ・その後肝臓が腫大し、腹痛、黄疸、上腹部の膨満、肝機能障害を起し、腹水や下肢の浮腫など全身状態が悪化していく。
- ・治療法は唯一外科的に虫体を病巣部ごと切除することだが、進行した後では周辺の臓器に虫体が広がっており、完全に取り除くのは困難。
- ・従って、予防が重要で、キツネや犬など接触した後は十分手洗いし、山菜など虫卵に汚染されている可能性がある食品や飲料水は加熱して利用することが大切。
- ・多包虫は腸から吸収され、肝臓経由で肺や脳にも行く。

### ○ダニが媒介する新種の感染症 SFTS（2013年時の命名）

- ・ Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome の略
- ・ 潜伏期間は6～14日で、発熱、下痢、腹痛、嘔吐、頭痛、筋肉痛、せき、リンパ節腫脹、出血症状があらわれ、約10パーセントが死亡。
- ・ 人以外の動物にも抗体が認められることから、ダニに咬まれた動物も感染していると思われる、それらの動物との接触によっても感染することが考えられる。
- ・ 医療機関では患者の血液や体液との直接接触での感染例も報告されているので、SFTSに類似した症状の患者を診断する時には、手洗いや手袋使用など厳格に守る必要がある。
- ・ 感染予防の有効なワクチンにはまだなく、特に野外でのダニ刺咬に注意し、完全に皮膚を覆うことが重要。
- ・ 症例定義(H25.1.30 厚生労働省からの通知による)下記をすべて満たす患者
  - ①38℃以上の発熱
  - ②消化器症状(吐気、嘔吐、下痢、下血のいずれか)

- ③血小板減少 (10 万/mm<sup>3</sup>未満)
- ④白血球減少 (4000/mm<sup>3</sup>未満)
- ⑤AST、ALT、LDH の上昇 (いずれも病院の基準値上限を超える値)
- ⑥他に明らかな原因がない
- ⑦集中治療を要する/要した または死亡した

○マダニによる感染症

- ・ライム病 (ボレリア) 野生動物 (シカ、リス)
- ・日本紅斑熱 (リケッチア) なし(ダニ体内で)
- ・ツツガムシ病 (リケッチア) ツツガムシ
- ・野兎病(細菌)野ウサギが多い
- ・SFTS(ウイルス)(前掲)